

「命」と「暮らし」を守る都城志布志道路の3つの役割

防災の道

南海トラフ巨大地震などによる津波の影響で、特に甚大な被害が想定される太平洋沿岸地域。本道路は、大規模災害時に人的・物的支援を行うため、太平洋沿岸地域と後方支援都市である本市を結ぶ「防災機能の強化」を図る路線としての効果が期待されます。



●防災道の駅



県内唯一の防災道の駅に選定されている「道の駅」都城NiQLL。大規模災害時における広域的な防災拠点としての役割を担っています。

医療の道

都城広域定住自立圏のみならず、広範囲の救急を支える都城郡医師会病院。地域医療の拠点として都城夜間急病センターや三次救急医療施設と連携し、切れ目のない医療体制を構築しています。平成30年以降、本市以南地域からの来院患者数は増加傾向にあり、本道路の全線開通により搬送にかかる所要時間が短縮されることで、救急搬送時の救命率向上が期待できます。



経済の道

輸送コストの縮減・飼料の安定供給による農林畜産業の活性化および6次産業化の推進、企業立地や新たな雇用創出などに大きく寄与し、本地域の「経済機能の強化」への効果が期待されています。

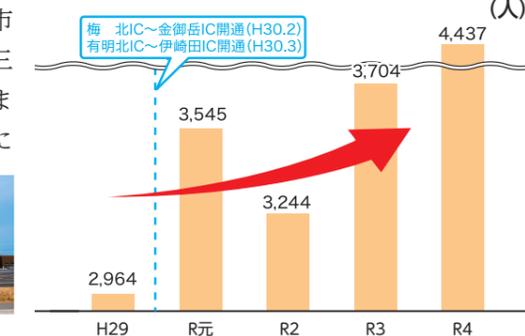
●食料供給基地を支える道

日本有数の畜産産出額を誇る食料供給基地である都城・曾於地域。「国際バルク戦略港湾」である志布志港で取り扱っている配合飼料の5割以上が本道路を経由して本地域およびその他宮崎県内へと輸送されています。

■志布志港からの配合飼料の輸送状況



■曾於・志布志・串間・日南からの来院患者数(人)



平成6年のスタートから本年度で丸30年が経過する都城志布志道路整備事業。市長に就任した12年前、開通区間は全体のおよそ3割でしたが、この12年で残り7割の区間の開通にこぎつけることができました。長い期間がかりでしたが、関係者の皆さま一人一人の力が結集して、本年度でいよいよ全線開通の見通しとなったことに心から御礼申し上げます。



池田 直永
都城市長

全線開通が目前に迫る都城志布志道路

さらに高まる「地の利」の優位性



本市の持つ「3つの宝」の一つ「地の利」。「都城志布志道路」の開通が目前に迫り、防災や経済、医療などさまざまな面でさらなる機能強化が期待されています。今回は、本市の「地の利」を生かした取り組みなどについて紹介します。

◎問い合わせ 都市計画課 ☎23-2090
企業立地課 ☎23-2753



都城の「地の利」
本市は、宮崎市と鹿児島市の間に位置し、陸・海・空からのアクセス性に富んだ南九州圏の「物流拠点都市」です。
市では、都城志布志道路の整備促進などと併せて「地の利」を生かした企業立地を強力に推進。企業立地件数は急速に増加していて、特に平成24年11月から令和6年6月末までの企業立地総件数は162件、経済波及効果は1638億円、立地企業が見込む雇用計画数は4311人で、さらなる雇用の場を生み出すとともに直接・間接的にさまざまな波及効果をもたらしています。

待ち望んだ全線開通が目前
計画路線指定を受けた平成6年以降、着実に整備を進めてきた都城志布志道路。
市では、早期全線開通に向けて、曾於市・志布志市や都城志布志道路早期完成促進民間協議会、道づくりを考える都城広域女性の会などと共に、都城志布志道路整備・活用促進大会の開催や、国や県への要望活動などを積極的に進めてきました。官民一体となった取り組みにより、全線開通の日がいよいよ目前に迫っています。



中心市街地・地域の活性化

市では、にぎわいと活力あふれる中心市街地および持続可能な地域づくりの観点から、各種取り組みを進めています。

◎問い合わせ 商工政策課 ☎23-2983
地域振興課 ☎23-7146

にぎわいと活力あふれる中心市街地

平成30年4月、中心市街地にMallmallが誕生。市立図書館やまちなか広場、まちなか交流センター、保健センター、子育て世代活動支援センター「ぶれびか」などには子どもから大人まで多くの人が集い、まちなかに新たなにぎわいが生まれましました。令和6年7月時点の来場者数は、市立図書館が約590万人、まちなか広場が約270万人など、全体で約960万人。開館6年余りで1千万人に迫る勢いです。

また、令和4年4月にはホテルやレストラン、マーケット、商業テナント、オフィスなどを備えた民間複合施設「TERRASTA」が開業。新規出店の増加や雇用の創出、市外からの誘客増加など高い波及効果により、活力の増大につながっています。



中心市街地
居住推進事業
の整備認定数
(令和2～5年度)
**8棟
180戸**



◎「歩きたびまちづくり」

中心市街地では、Mallmallを核に人の流れができ、そこににぎわいがまちなかに広がり、空き店舗を活用したリノベーションや、クリスマスシーズンにまちを彩る「まちなかイルミネーション」、学生らと連携したさまざまなプロジェクト、居住機能の集積など、居心地が良く歩きたくなる「まちなか」が形成されています。

持続可能な地域づくり

持続可能な地域づくりの観点から、地域の特性を生かした取り組みを進めています。

◎地域活性化の推進

地域課題の解決や活性化のため、住民団体などが自発的に取り組む事業に補助金を交付。令和3～6年度までの4年間に、1地区当たり1千万円を交付し、令和5年度は全15地区で47事業が実施されました。

◎自治公民館活動の推進

市と協働するパートナーとして地域コミュニティを支える自治公民館市では、加入促進の支援とともに、活動の拠点となる公民館の環境整備などを後押ししています。

◎地域の拠点施設の整備

令和2年に山田総合センター、同5年に山之口総合センターが稼働。本年度からは高城総合支所複合施設整備やたちばな天文台リニューアルが始まるなど、地域の拠点となる施設の整備が進んでいます。



食料供給基地を支える

農林畜産業の振興

本市の持つ「3つの宝」の一つ「農林畜産業」。今回は、農林畜産業の状況や6次産業化の推進、森林整備の取り組みを紹介いたします。

◎問い合わせ

【農業産出額】農政課 ☎23-2768
【6次産業化】みやこんじょPR課 ☎23-2193
【森林整備の促進】森林保全課 ☎23-2152

農業産出額4年連続日本一！

豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、古くから農林畜産業が盛んな本市では、そのさらなる振興のため、担い手の確保および支援施策やスマート農業など先進技術の導入を支援するための施策を展開し、食料供給基地としての生産基盤の確保と生産体制の強化に取り組んでいます。



農業関係者の尽力にこれらの取り組みが相まって、本市の農業産出額は、令和元年から4年連続全国1位となっています。

6次産業化を推進

市では、農林畜産物の付加価値を高める「6次産業化」の取り組みを積極的に推進。全国展開できる商品の開発や販売力の強化を促すことで「儲かる農業」の実現に取り組んでいます。

また、令和4年には「都城メンチプロジェクト」を始動し、地域で愛される「都城メンチ」を官民一体で新たな観光資源に磨き上げる取り組みを進めています。



森林整備の促進

本市の総面積の5割を占める森林。市では、森林を未来に残していくため、再造林や造林作業の省力化などの支援施策に取り組んでいます。

人間力あふれる

子どもたちの育成

本市の持つ「3つの宝」の一つ「人間力あふれる子どもたち」。今回は、子どもたちの輝く未来のための取り組みを紹介いたします。

◎問い合わせ

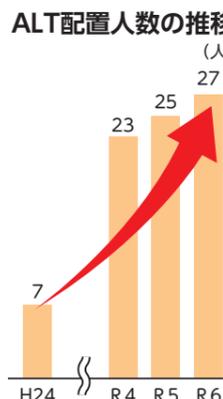
学校教育課 ☎23-9544

デジタル技術を活用した学びの支援

小・中学校の児童生徒に1人1台端末を導入。子どもたちの情報活用能力と学力向上を目的に、端末の活用を図っています。さらに、小学3年生から中学3年生には本人の理解度に応じた問題が話題されるAIDリルを導入し、基礎・基本の確実な定着を進めています。

英語を身近なコミュニケーションツールに

平成24年度に7人だったALT（外国語指導助手）を本年度までに27人に増員。子どもたちが生きた英語に楽しみながら触れることができ、英語に親しみながら触れることができる機会づくりに取り組んでいます。



本に親しめる環境づくり

子どもたちが読書習慣を身に付け、積極的に学校図書館を利用できるように、小・中学校に35人の図書館サポーターを配置。学校図書館にお勧め図書を紹介コーナーを設置したり、ブックトークを行ったりするなど子どもたちが本に親しむ機会を提供しています。

